



ご卒業・ご修了おめでとうございます

学校長 狩野賢司

まだ寒い日もありますが、日射しも強さを増し、春の植物もたくさん花を咲かせはじめています。春が感じられるこの時期、6年生はいよいよ卒業を迎えました。この6年間、子どもたちは大泉小学校で様々な体験をし、多くのことを学び、そして今、菊の園から巣立っていかうとしています。6年前に入学したときに比べると、心も体も大きく成長し、またたくましく育ったお子様の姿に、保護者の皆様の感慨もひとしおなのではないかと思えます。お子様のご卒業、心よりお慶び申し上げます。また、この6年間の学びは、保護者の皆様のご理解とご協力なくしては成り立たないものだったと思えます。これまで長い期間にわたるご理解とご協力で深く感謝いたします。

卒業生たちはこの1年間、下級生たちを牽引する見事なリーダーシップを発揮してきました。日々の生活の中でもそうですが、特に行事の中で印象深い思い出がたくさんあります。和楽会で新入生を暖かく迎えるために懸命に考えて活動したり、きくまつりでは下級生の役割を割り振りつつ、その調理を優しくサポートしたりしていました。全校遠足では、疲れてしまった1、2年生を気遣いながら、正しいルートを見つけるために同級生同士で激しく口論したりする姿もありました。そんな下級生への思いがいっぱいに詰まったのが、おわかれ音楽会でのオペレッタでしょう。自分たちの思いを上手く伝えるための工夫や練習の苦労は並大抵のものではなかったろうと思えます。でも、そのメッセージが十分に込められたオペレッタに仕上がっていましたし、1時間20分が瞬く間に過ぎた素晴らしい出来映えだったと思えます。在校生もそのメッセージを存分に受け取ったでしょう。また、在校生の合唱や演奏、そしてその選曲も、これまで暖かく支えてくれた卒業生に対する感謝の気持ちにあふれた素敵なものでした。

在校生たちはそんな卒業生の姿に憧れながら、自分たちもそのようになりたいと希望を膨らませていることだろうと思えます。4月になれば1学年進級し、新たに迎える新入生をどのように支えていくか、それぞれの学年の子どもたちが思いを馳せているでしょう。特に、卒業生からバトンを受け継いだ5年生の意気込みはたいへん高く、1人1人が決意を新たにしていると思えます。どの学年でも、進級のこの時期は新しい自分になる、新たな事柄にチャレンジするという意識が高まっている時だと思えます。春休みの間に、進級したらどんな上級生になりたいか、どんな将来を思い描いているのか、親子で話し合ってみると、お子様の新鮮な姿を見いだすことができるかもしれません。

最後になりましたが、本年度のPTA役員の皆様には、一年間のご支援とご尽力をいただきましたこと、ほんとうに感謝申し上げます。また、保護者の皆様には、本校の運営にあたりまして多大なるご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。教職員を代表して、心からの感謝を申し上げます。卒業生の保護者の皆様、繰り返しになりますが、長い間たいへんお世話になりました。素晴らしいお子様でした。今後も元気に成長し、大きな活躍をしてくれることを願っております。そして、在校生の保護者の皆様、来年度もまた心強いお支えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。